

表題 「東北大学グリーンゴールズ宣言」における目標達成に向けた新たな環境目標の設定について

2021年7月19日、東北大学は世界の様々な社会問題や環境問題の解決に挑み、持続可能で心豊かなグリーン社会の実現を目指すことを「東北大学グリーンゴールズ宣言」として発表した。当該宣言で設定された具体的な目標のひとつに、「大学キャンパスのゼロカーボン化」があり、DX(デジタルトランスフォーメーション)による業務効率化を通して2030年度までに大学キャンパスの温室効果ガス排出量を2013年からマイナス50%、2040年度までに実質ゼロを目指している。

かねてより東北大学では環境活動を推進するにあたって、3年毎に環境目標及び環境活動計画を策定している。具体的には以下に示す4項目を毎年の重点目標として、達成すべき一定の数値目標を設定している。2022年度～2024年度における環境目標及び環境活動計画については、これらを踏まえつつ、大学キャンパスのゼロカーボン化を目指して、新たな目標を設定した。

●二酸化炭素排出量の削減

「東北大学グリーンゴールズ宣言」でDXによる業務効率化等で2030年度までに50%削減を目指すため、従来の数値目標にプラス2%の上積みを行い、「毎年度4%削減」とする新たな目標を設定した。

●エネルギーの使用量の削減

「前年度比1%以上削減」を継続して、取組を推進する。

●上水使用量の削減

「前年度比1%以上削減、2024年度までに2021年度比3%以上削減」を継続して、取組を推進する。

●紙類の使用量の削減

「前年度比2%以上削減」を継続して、取組を推進する。

東北大学グリーンゴールズ宣言における施設整備方針



東北大学Green Goals Initiative [施設整備方針]

東北大学は、2030年度CO2排出量を50%削減（2013年度比）するとともに、2040年度のカーボンニュートラル実現を目指します

Net Zero Energy Building の整備

新築建物 Nearly ZEB を目指す
(省エネ50%以上+創エネ25%以上)
既存建物 改修時に ZEB ready を目指す
(高气密、高断熱、高効率化により省エネ50%以上)



創エネルギー

再生可能エネルギー発電設備の整備・活用
第三者所有モデル(PPA※)の導入:
事業者は大学施設を活用して再生可能エネルギー発電設備を整備・管理し、大学は電力を購入
※Power Purchase Agreement

新しい技術の実験的設置
高効率自然エネルギー設備
本学の研究と連携した省エネ設備の実験



省エネ設備への更新

既存設備の更新
空調設備をGHPからEHPへ更新
照明器具のLED化
高効率機器への更新
自然採光・自然通風の活用、
資源の有効活用
網戸、ソーラーチムニー等による自然換気
庇(ひさし)・ライトシエルフの設置
排熱や雨水等の活用

木材の積極的利用

木材利用の推進
CLT※など新たな建築材料・建築技術を活用するとともに、CO2を固定化する木材の積極的な活用を推進
※Cross Laminated Timber
(直交集成板)



効果検証と地域への普及

省エネ改修の実証フィールドとして効果を検証
仙台の気候に適した省エネ仕様
「東北大学施設モデル」を策定・反映することで、グリーンキャンパスを実現
地域への普及により地域全体の施設の省エネ化に貢献

施設部HP(環境報告書関連)

<https://www.bureau.tohoku.ac.jp/sisetubu/kankyoreport/kankyoreport.html>

グリーン未来創造機構HP(グリーンゴールズ宣言関連)

<https://www.ggi.tohoku.ac.jp/>